

(別紙様式2 ②)

議員報告書	
1 議員名	石飛 慶久
2 期 日	2025年11月12日 ~ 2025年11月13日
3 研修先等	1日目 徳島県上勝町 2日目 徳島県海陽町ほか
4 内容(目的)	<p>徳島県上勝町における「葉っぱビジネス」は成功をおさめたが、現在、高齢化による後継者問題に取り組みが行われている。その取り組みとは「全国に向け後継者の募集を行い、それに対し応募者がいて、その職に就いて定住にもつながっている。」と問い合わせに対し返答を得た。したがって、本市の農業をはじめとする後継者問題の参考にするため、その詳細を現地にて調査する。</p> <p>また、阿波海岸鉄道については私鉄経営における乗客数の減少からDMV(列車バス兼用)を取り入れ運行をされている。過疎における鉄道の存続のあり方を調査し研究する中で今後の芸備線のあり方の検討材料とする。</p>
5 報告事項	
<p>令和7年11月12~13日に徳島県上勝町および阿佐東線 DMV 沿線地域(海陽町ほか)を視察し、人口減少・高齢化・山間地域という点で安芸高田市と共通する地域における、産業振興・環境政策・公共交通の先進事例について調査した。</p>	
1日目	
☆上勝町/「葉っぱビジネス」	
対応者/ (花本靖上勝町長、企画環境課職員、粟飯原啓吾株式会社いりどり社長、地域おこし協力隊)	
<p>1999年4月に設立された第3セクター株式会社いりどり「葉っぱビジネス」は、故横石知二前社長の発想で、新たなニッチな「つまもの」事業の1986年秋スタートから始まった。料理の「つまもの」用の葉を特産品化し、高齢農家がICTを活用しながら需要情報を共有し、互いに工夫して出荷する仕組みによって、高齢者の就労機会と生きがいを生み出している。但し現在でも年収2000万円稼ぐ方いるが、「つまもの」事業から約40年経ち、事業の継承が課題化している。課題の解決策として地域おこし協力隊制度の導入など、事業の維持に努力されている。</p>	
☆上勝町/「ゼロ・ウェストセンター」	
対応者/ (花本靖上勝町長、企画環境課職員、地域おこし協力隊)	

2003年、「ゼロ・ウェスト宣言」をされ、2020年にリサイクル率を80%達成されました。そして、「未来の子どもたちが暮らす環境を自分の事として考え、行動できる人づくり」を2030年度までの重点目標と掲げ、再び「ゼロ・ウェスト宣言」をされました。

人口1337人（令和7年1月1日現在）・面積109.63㎡と小さな自治体が、公助・共助・自助の精神の下「ゼロ・ウェスト」を町全体で実践されている。本市においても、大きな目標ではあるが、ゴミ処理と環境を合わせて地域負担・地域環境の両立を考え、芸北広域きれいセンターの今後の在り方も議論すべき時期と思った。

2日目

☆海陽町／阿佐東線 DMV

対応者／（阿佐海岸鉄道株式会社 大谷尚義代表取締役専務、総務係企画広報担当）

視察では、利用者減少により存続が危ぶまれていた鉄道に代わる新たな地域公共交通として、道路と線路の両方を走行できる車両（Dual Mode Vehicle）の導入経緯と現状について説明を受けた。

導入により燃費や保守の効率化、観光客の増加といった効果がある一方で、運転資格を持つ人材確保の難しさ、想定以上の試験・検査費用、日常の生活交通としての利用が伸び悩んでいることなど、課題も多いことが示された。

また、急勾配や積雪地域での運用には制約があり、また、一般鉄道車両とDMV車両の混在運航については、双方の運転保安システムの統一が不可欠であり、現時点では出来ない。など、安芸高田市のJR芸備線への導入には慎重な検討が必要であると感じた。

視察研修を通じて調査目的以外に感じたもの、上勝町の第3セクター（6社）は町民の大切な雇用の場であるが、業績は厳しい中、事業を展開されている。唯一、（一社）かつうら国土と未来振興協会（国土調査業務・土地、建物の測量・調査・管理業務・森林施業、土木及び建築事業に伴う企画・測量・説系・調査・管理業務の受託事業）が安定している。

「ゼロ・ウェスト」を通じて、未来の子どもたちに与える影響は大きいと思う。思いやりを持つことで、安定した穏やかな地域の構築ができると思う。